カキザワニュース

発行：柿沢未途後援会
江東区東陽4-6-1 三共商会ビル4F
TEL.03(5665)3104 FAX.03(5632)8010
URL http://www.310kakizawa.com
E-mail mail@310kakizawa.com

2003年1月号

ご意見、ご感想をお寄せください。（Eメールでも受け付けています）

立て、ニッポンの30歳!!

おかげさまで東京都議会議員となって一年半となりました。昨年二月には本会議での一般質問を行ない、都内の六十二区市町村を広域合併し、それによって肥大化した行政機構の大幅なスリム化を図るという私の「東京十二区構想」について、パネルを使いながら、知事の見解をただしました。石原知事の答弁は好意的で「新人議員の大胆な提案だが、一つのたたき台として耳を傾けたい」と答えました。

議会終了後、知事と立ち話をしましたが、パネルを手に取って「ココとココも合併できるんじゃないか」と話すなど、強い関心を持ってくれたようでした。石原知事は党派に関わらず「良いものは良い、悪いものは悪い」というスタンスの人なので、無所属の私はとても助かっています。

所属する厚生委員会でも、都が進める福祉改革、都立病院改革などについて建設的な提案を行っています。私が厚生委員会で質問したことが、都の施策として実現したりもしています。「都立病院に電子カルテを導入して、地域の医療機関との連携に役立てるべきだ」という私の提案がきっかけとなって、都は来年度から全国初となる診療所も含めた電子カルテシステムの導入の取り組みをスタートさせることになりました。先日、行なった「安価な後発医薬品の使用促進で医療費の削減を」という提案も、議会関係者から「目からウロコが落ちました」という感想をいただきました。

私は必ずしも「厚生行政の専門家」とか「福祉のプロ」とかいうタイプの議員ではなかったのですが、おかげさまでこの分野にもずいぶん詳しくなりました。今後のキャリアを考えていく上で、本当にいい経験をさせてもらっていると思います。

●

私は昭和四十六年生まれの三十一歳（一月一日現在）です。都議会議員百二十七人の中で二番目に若いんですが、この世代の代表として議会に出ているというのは、実はものすごく大事なことなんじゃないかと思っています。今の途方もない借金財政のツケを払わされるのは、この世代だからです。

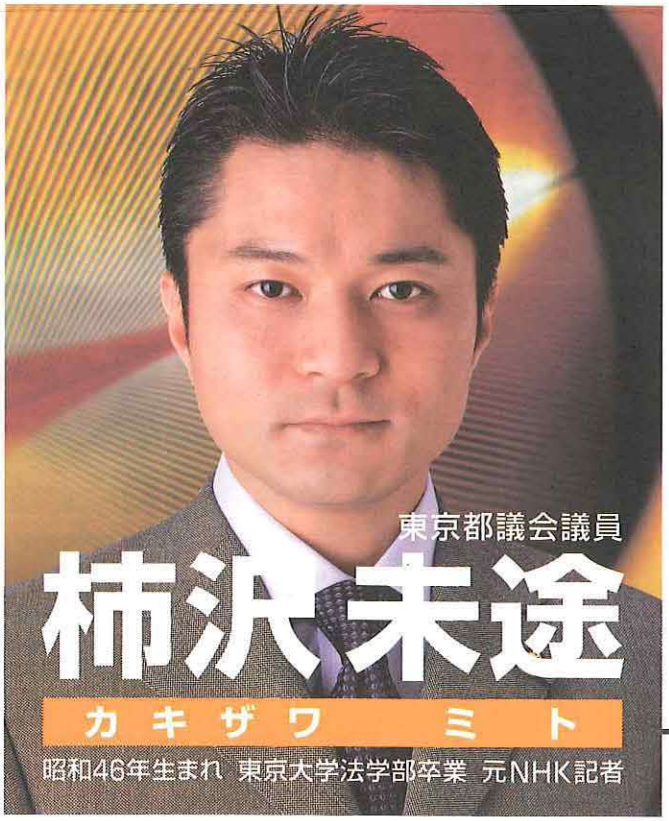
たとえば年金。年金制度は既に破綻しています。三十五歳より下の世代は、払い込む保険料より支給される年金が少なくなるという驚くべき試算がなされています。払った分よりもらえる額が少なくなるなんて、そんな馬鹿げた話があっていいのでしょうか。ちなみに今七十歳の世代は、払った保険料の五倍の額の年金を受け取っているのです。

雇用にしてもそうです。「仕事の中の曖昧な不安～揺れる若年の現在」（玄田有史著／中央公論新社）という本があります。中高年の雇用が既得権で守られているために、若い世代の雇用機会がいかに奪われているかをデータによって明らかにしています。

長引く不況の影響で失業率は五％後半と戦後最悪ですが、中でも十五～二十四歳の男性は十％以上で、急速に悪化しています。それに加えて、失業率にはカウントされない、いわゆるフリーターが百五十万人を上回るまでになっています。雇用問題というと中高年のリストラに目が向きがちですが、実は中高年（四十五～五十四歳）男性の失業率は三％程度でしかありません。企業の人員削減は中高年のリストラよりも若い世代を新規採用しないことで行なわれているのです。そのことが若い世代の高い失業率をもたらしているのです。

基礎年金をすべて消費税でまかなうとすると、十五％位までの消費税引き上げは避けられないといわれています。医療費だって三割負担にしたところで、いつまで持つか分かりません。それに加えて、国・地方あわせて七百兆円の巨額の公的債務があります。すべて私たち三十歳世代にのしかかってくる負担です。

職にはつけない、負担は増える、老後は不安だらけ。それが三十歳世代の偽りのない現実なのです。これでいいのでしょうか？ にもかかわらず、三十歳世代の選挙における低投票率は目を覆うばかりです。直近の選挙で見ると、三人に二人が棄権しています。これはどうしたことでしょう。私たちのこれからを考えたら、決して無関心ではいられないはずなのに。何も文句を言わなければ、すべてのツケは私たち三十歳世代に回ってきます。「どうせ何も変わらない」と選挙にも行かず他人任せにしているのでは、本当に何も変わりません。すべての負担を先送りして、歪んだ借金大国となってしまったこの国のありかたを正すのは、私たち三十歳世代の役目なのではないでしょうか。

今年の四月には都知事選をはじめとする統一地方選が行われます。おそらく衆議院の解散・総選挙もあるでしょう。この国のありかたを決める大事な一年になります。あの明治維新も若い世代の決起によって成しとげられました。今こそ私たち三十歳世代の力で、閉塞し停滞しきったこの国を変えたいと思っています。

立て、ニッポンの三十歳!!